

# 池島 究極の炭鉱都市



池島全景



夕間にシルエットを浮かべる巨大重機のジブローダー

いっぽう池島炭鉱は、西彼炭田のほぼ中央、東シナ海に面した外海地域の沖合約7キロに浮かぶ池島の、ほぼ全域を社有地とした炭鉱です。高度経済成長のはじめから21世紀の初頭まで、三井系の松島炭鉱が経営した、九州最後の炭鉱でした。

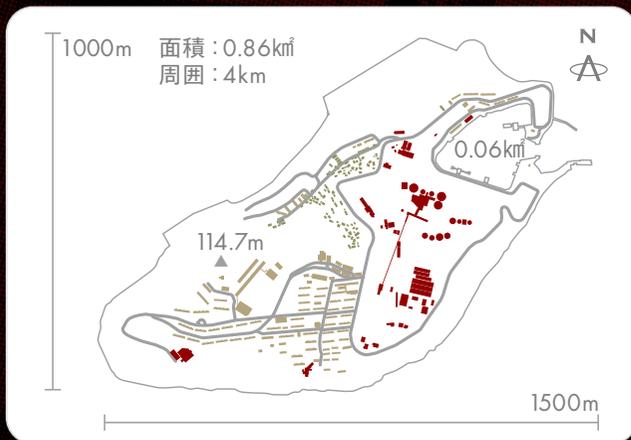
軍艦島の後を継ぐように創業した池島炭鉱は、エネルギー革命のまっただ中を疾走した炭鉱です。石炭から石油へ、国内の石炭から輸入炭へ、国のエネルギー政策が石炭にとって逆風の時代に、国内の石炭産業の生

き残りをかけた最後の闘いに挑んだ炭鉱だったといえます。

国内初の海水淡水化装置や、国内初の石炭選別機、そして世界最速の坑内電車や巨大な重機の数々によって、採掘から出荷までほぼオートメーションで行われていた池島炭鉱は、国内の炭鉱技術が辿り着いた終着点でしたが、それは同時に、度重なるコスト削減の産物でもありました。

しかし、職場の親方が暴利をむさぼった明治時代の納屋制度や戦中の徴用工問題、そして明治から昭和30

年代初頭までの遊廓。さらに炭鉱史を通しての大規模な産業事故。これら炭鉱にまつわる“黒歴史”がいっさい無かった池島炭鉱は、日本の炭鉱産業が夢見た理想の形が結実した炭鉱都市でもあったのです。今、遺された工場群と住宅群が離島の自然と融合し、唯一無二の異空間を創り出しています。



炭鉱のシンボル立坑槽と石炭を運んだ炭車



地下720メートルを往来した第二立坑の昇降口



印象深い8階建て炭鉱アパート群



坑道で静かに眠る石炭層を振り込んだロードヘッダー



② 火力発電所 (⇒P30)



① 港から見える石炭生産工場 (⇒P24)



③ 歓楽街のあった郷地区 (⇒P34)



④ 炭鉱のシンボル立坑槽 (⇒P36)



⑤ 炭鉱街の中心だった新店街 (⇒P47)



⑥ 炭鉱アパートエリア (⇒P40)



⑦ 展望台から眺める第二立坑 (⇒P38)



池島俯瞰図

## 池島散策

軍艦島と違って、池島は島の多くのエリアを自由に散策できます。港の周辺に遺る石炭の生産工場や数々の巨大重機、島の高台に広がる80棟にもおよぶ炭鉱アパート群、そして操業時から使われていた共同浴場や各種施設など、



⑧ 昼食を食べる市場 (⇒P44)



⑨ イザナミと山の神を祀った池島神社 (⇒P48)



⑩ 印象的な8階建て炭鉱アパート (⇒P42)

炭鉱の街がまるごと封印された池島は、操業停止から十数年経過した今でも、圧倒的なパワーで迫ってきます。

基本的には午前中の1時間半と昼食後の1時間半の合計3時間。ガイド同行でのウォーキングですが、午後の時間は自由行動も選択可能。じっくりと写真を撮影したいとか、一人で散策しながら無人島気分を味わいたい、という方は散策マップを片手に、島内を探索するのもいいでしょう。

ただし島内はイノシシやマムシが多く、夏場は虫も多いので、くれぐれも注意が必要。特に草藪の濃い所へは近づかない方がいいようです。また、池島には現在も100人強の島民の方々がお住まいなので、その点も留意してのウォーキングに心がけましょう。



⑪ 「御安全に」の看板 (⇒P48)



⑫ 草に埋もれる幼稚園の遊具 (⇒P46)



⑬ 角力灘の絶景 (⇒P49)



⑭ 巨大な恐竜のようなジブローダー (⇒P49)